東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

比較読み教材を活用した知を統合する探究的単元の開発

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-08-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉本, 紀子, 千田, 洋幸, 浅井, 悦代, 宇佐見, 尚子, 影山, 諒, 西村, 諭, 山根, 正博, 若宮, 知佐, 横田, 哲, 小岩井, 僚 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174330

比較読み教材を活用した知を統合する探究的単元の開発

研究代表者　東京学芸大学附属国際中等教育学校
杉　本　紀　子
共同研究者　東京学芸大学　　千　田　洋　幸
東京学芸大学附属国際中等教育学校
浅　井　悦　代　宇佐見　尚　子
影　山　　諒　西　村　　諭　山　根　正　博
東京学芸大学附属高等学校　　若　宮　知　佐
高知県立高知国際高等学校　　横　田　　哲
ドルトン東京学園　　小岩井　　僚

目　　次

1．研究プロジェクトの概要 …… 52

2．比較読みの研究と実践について（千田　洋幸）…… 53

3．実践の概要・授業のイメージ …… 54
3．1　「災厄と日本人」（杉本　紀子）…… 54
3．2　「人間にとって感情とは」―別役実『寂しいお魚』と真壁仁『峠』通して―（浅井　悦代）…… 56
3．3　「見えないフォーマット」（影山　　諒）…… 56
3．4　『「である」ことと「する」こと』と他の文章の比べ読み（山根　正博）…… 58
3．5　「何を，どのように表現しているか～現実と非現実～」（西村　　諭）…… 60
3．6．1　「戦争体験の『表象』」（若宮　知佐）…… 61
3．6．2　「意思集約システムの『取扱説明書』を書こう」（若宮　知佐）…… 62
3．7　「冒頭中毒」（横田　　哲）…… 63
3．8　「多様なモードでの作品理解を探る」（小岩井　僚）…… 64

4．今後の課題と次年度の展望 …… 65

5．付録　比較読み単元案一覧表 …… 66

東京学芸大学附属学校　研究紀要　第 49 集

比較読み教材を活用した知を統合する探究的単元の開発

研究代表者　東京学芸大学附属国際中等教育学校
杉　本　紀　子
共同研究者　東京学芸大学　　千　田　洋　幸
東京学芸大学附属国際中等教育学校
浅　井　悦　代　宇佐見　尚　子
影　山　　諒　西　村　　諭　山　根　正　博
東京学芸大学附属高等学校　　若　宮　知　佐
高知県立高知国際高等学校　　横　田　　哲
ドルトン東京学園　　小岩井　　僚

1．研究プロジェクトの概要

本研究は新学習指導要領の実施に伴い，高等学校国語科において新たに求められるであろう教材開発・単元開発の切り口を探ることを目的とし，附属国際中等教育学校国語科を中心に大学・公立・私立校の教員によって構成されたものである。以下にプロジェクトの概要を述べる。

□目的

平成29年中学校学習指導要領および平成30年高等学校学習指導要領において掲げられている「知の統合」の具体的な姿を探り，その実現に向けて新たな教材観のもとで探究的な単元設計のあり方を提案することを目的とする。

□本研究の意義

本研究の意義は新たに求められる学びにおける「知の統合」を具現化するところにある。従来からも「総合的な学び」「包括的な学び」という学びのスタイルや形は提唱されているが，総合的探究の時間ではなく，具体的な教科の中で，どのような仕組みや仕掛けがその学びを支え，作用するのかを検証する余地はまだ残されていると考える。

□研究の内容と計画

①　比較読み教材開発・単元開発の先行研究・実践調査

従来行われてきた「比較読み・比べ読み・つなげ読み」の教材・単元開発の先行事例を調査し，どのような目的・視点で教材開発や単元開発が行われてきたかを分析する。また同時に他教科（特に外国語科・社会科）における比較読みや資料比較などを活用した単元開発例や実践例を調査する。

②　比較読み教材の新規開発検討

現行の教科書掲載教材に対してどのような比較教材が活用可能か，また教科書に掲載されていないテクスト（文学・非文学・視聴覚を問わない）においてどのような選択と組み合わせが可能かを定例の研究会（主としてオンライン）で提案・検討する。

③　比較読み教材を活用した単元開発と実践

②において提案された教材を中心に，「概念」を基盤としてテクストを比較する活動・学習を取り入れた単元を設計・実践する。

④　③の実践を通じた効果検証（2021年度は未実施）

生徒の振り返りと事後アンケート，および教員の振り返りによって検証する。

□実施方法

・令和3年度 研究月例会実施

7月10日・8月6日・8月23日・9月23日・10月24日・11月28日（計6回）いずれもオンラインによる実施。約2時間／回 1回につき5名～ 8名の参加者。1名～ 2名の単元案の発表または実践例発表と討議。

・単元案一覧表作成

Google drive 上でスプレッドシートを共有して作成 21単元案・のべ62教材（2021年12月現在）のリストを作成した。

□単元案一覧表について

研究過程においては，図1のように共同研究者が各自で比較読み・比べ読みなどを含めた教材の組み合わせとそれを活用しての単元案を発案し，アイディアとして蓄積した。月例会においては発案した単元のイメージを発表し，他の教材との関連性や課題となる点，その単元で実施可能な学習活動について検討した。なお紙面の都合上，単元案一覧表の全てを本報告書に掲載することはできないが，その一部を付録として本稿末尾に付す。

科目名 あるいは関連するジャンル	作品ジャンル （小説×映像等）	作品１	作品２	作品３	作品４	単元のねらい	単元の問い	主な活動・単元のイメージ	組み合わせの視点 時代／ジャンル／映像・メディア／社会問題／概念	備考
現代文×古典	小説・古文・漢文	似島鶴『宵休別事』	紀貫之『土佐日記』	羅貫中『三国志演義』（立間祥介訳）	・ライトノベル ・夏目漱石「こころ」	意図的に「出会い」を創造することによって、その後の印象や評価を操作することができるのではないか、ということについて考える。	テクストの冒頭には、作者のどのような思惑が隠されているのか。	３つのテクストの冒頭（教員の方で、内容の切れ目、紙面の都合などから意図的に抜粋）を、「語り手」「登場人物」「内容」などの観点からそれぞれ分析し、比較する。	小説・物語縛り	大学入試（共通テスト等）を考えると、教科書教材や古典文法を扱う必要があるのだが、漢文教材において、ちょうどよいサイズで句法も教えるものがなかなかない。
現代文	俳句・写真・絵画	俳句	写真	絵画		表現方法の違う作品を「読み」何が起きるかを考える。音が聞こえる、映像が見えるなど。共通点と類似点を考えることによって、それぞれの表現方法の特徴を考える。	表現方法の違いが私たちの意味の構築にどのような影響をもたらすのか。	それぞれの作品について何を伝えようとしているのかを考え、それはどこから読み取れるのかを考える。俳句であれば、語彙選択など、写真であれば写っているもの・時代など、絵画であれば、描かれているもの・時代・色使いなど？	言語・表現・メディア？	俳句や写真は目の前のものを切り取る点で似ていたり、俳句や絵画では題の中のイメージを伝えるという点で似ている部分があるが、表現方法が異なる。どのような伝わり方の違い特徴があるかを考えたい。
現代文	評論	丸山真男「である」ことと「する」こと	新聞記事など			やや抽象的な説明と現実世界の関わりを見いだす	やや抽象的な説明で示されたパターンを現実世界に見いだすことができるか。	作品1で示されたパターンを新聞等で報道された内容に見出す	具体と抽象	
現代文	小説・評論・絵画・写真・映画	目取真俊「水滴」	S・ソンタグ「写真論」	F・ゴヤ「戦争の惨禍」 R・キャパの写真	スピルバーグ「シンドラーのリスト」 ランズマン「ショアー」	表象（representation）について考える。かつて起きた出来事を再現し伝えて行くことの意味と落とし穴について、さまざまなメディアの違いについても考察しつつ、気づかせたい。	「出来事」を伝えることは可能か？		表象／物語／表現媒体	

図１　単元案一覧表（抜粋）

２．比較読みの研究と実践について（千田　洋幸：東京学芸大学）

複数のテキストを比較読み（比べ読み）する，という実践は言うまでもなく古くから行われていた。わかりやすいところでは，芥川龍之介「羅生門」と『今昔物語集』の「羅城門ノ上層ニ登リテ死人ヲ見タル盗人ノ語」，中島敦「山月記」と李景亮「人虎伝」，太宰治「走れメロス」とシラー「人質」など，近代文学とその典拠を比較する実践が日常的に行われている。このことについては，学習指導要領にも，「言語文化」での実践を前提とした以下の記述がある。

> 「言語文化」で教材とする作品や文章は，他の複数の作品と関わりをもって成立していることが少なくない。例えば，近代以降の小説の中には，古典の説話や中国の伝奇小説を基にしたものもあり，小説とその典拠と比較しながら読むことによって，より内容の解釈を深めることができる。他の作品などとの関係を踏まえるとは，このように，対象とした作品や文章と関係のある他の作品を読み，両者の関係を理解した上で対象とした作品や文章の内容の解釈に向かうことである。

ただ最近では，こうした単純な試みを超え，異なる歴史的背景，異なる空間性や地域性，異なるメディア，異なるジャンルに属するテキストの比較・対照がさまざまに試みられている。現在，こうした実践が要請されることには必然的な理由がある。

一つは，かつてＪ・クリステヴァが「あらゆるテクストは引用のモザイクとして構築されている。テクストはすべて，もうひとつの別なテクストを吸収，変形したものである」（『セメイオチケ』）と述べた，いわゆる間テクスト性の理論に由来する。我々が日々扱っている教材（テクスト）は常に先行テクストの引用の産物であり，あるテクストの周囲には相互性を持つ無数のテクストが存在する。比較読みを実践することは，教材を単一で扱うことによっては隠蔽されてしまう間テクスト性を呼び覚まし，教材に潜んでいる意味を活性化することにつながるのである。

もう一つは，現在の学習者がおかれている情報環境である。スマホを駆使する中・高校生は，ネットやＳＮＳを縦横に活用しながらマルチモーダルな情報を日々消費している。そこでは，アナログなメディアしか存在しなかった時代とは質・量とも全く異なった文化が受容されている。彼らが未来の情報社会を生きていくために国語科が何らかの貢献をしなければならないとすれば，現状の教科書のみではとうてい不十分と言わざるをえない。現行の教材をこの社会に見あったものにするためには，新たな教材の開発と，複数のテキストを用いて学習者の読解を複線化・複雑化する試みが不可欠である。比較読みの実践は社会的要請でもあるのである。

ただし今のところ，比較読みは各々の教師の個別の実践にとどまっていて，体系化・系統化の作業はまだこれからというのが現状だろう。比較読みの体系性を志向する実践研究として現在もっともまとまった成果は，船津啓治『比べ読みの可能性とその方法』（溪水社，2010年）だが，船津は同書で，比較読みの機能について「1比べ読みは，複数で多様なテクストを対象とし，読者のコンテクストを広げる。2目的を持って比べ読みをする場合と，比べ読みによって目的が生ずる場合とがある。3比べ読みをすることで，テクスト選択の力に展開する。4比べ読みによって，筆者・作者を相対化する。5比べ読みのときに，読みの観点を持つことができる。6比べ読みによっては，表現様式を意識し，テクストの特徴を掴みやすい。7比べ読みによって，無意識に思考操作を行う。8比べ読みによって，客観的・多面的・総合的に考える。9比べ読みによって，批判力の基礎を養う。10比べ読みによって，表現者意識に立ち，情報を活用・発信することにつながる。11比べ読みは，多くの読書行為に結合する。12比べ読みは，多くの読書生活に結合する。13比べ読みによって，読者として育ち，主体となる。14比べ読みによって，自己の読みをメタ認知できる。」の14の観点を挙げる。今後，こうした発想をベースにしながら，中学・高校の発達段階でどのような水準の教材開発が可能か，どのような読解水準を教室に持ち込むことができるか，またそれをどのように系統化していくべきか，等の問題に取り組む必要が生じると思われる。

３．実践の概要・授業のイメージ

本項では，今年度の研究過程において研究メンバーが設計した各単元の実践概要・授業のイメージについて示す。なお本項に提示する授業案については授業としては未実施のものも含まれている。また，今回の報告では発案者の現段階での単元のイメージができるかぎりそのまま伝わるように，各発案者におけるフォーマットは特に揃えていない。

３．１　「災厄と日本人」（発案者・実践者：杉本　紀子）

（1）単元設定の意図・動機

令和4年度に施行される高等学校学習指導要領において新設された「古典探究」では，生徒が同じ題材を扱った複数の古典を比較して読むことや自分自身の知見と照らし合わせ，それを利用して古典を解釈することを掲げている。教科書においてもこうした点に焦点をあてた工夫がなされると推測されるが，本単元では古典という枠

組みを超えて現代までを通時的にとらえる視点を持たせ，自分がいる「いま・ここ」が古典の時代から連綿と続いている地平の上にあることを意識させ，古典への「共感性」を育むことを意図した。

（2）教材紹介

古典：『方丈記』（鴨長明）（五大災厄の部分）・『平家物語』巻12「大地震」・仮名草子『かなめいし』

現代：『16歳の語り部』（雁部那由多・津田穂乃果・相澤朱音著　佐藤敏郎監修　ポプラ社）

「国会事故調報告書」（要約版）

参考資料：黄表紙『天下一面鏡梅鉢』（唐来参和）・その他災害を扱った新聞記事など

（3）単元のキーワード

災害・記憶・語り・文脈

（4）単元の概要

1）第1次　『方丈記』を中心とした読解

『方丈記』の特徴とその記録的側面を確認し，「記録的でない」部分が何を語っているかを読み取る。

『方丈記』における「福原遷都」の意味を解釈する。「災害」のとらえ方を自分達の知見と重ねて考える。

（例）我々は「自然災害」と「人災」をどのように区別しているのか。

『方丈記』と『平家物語』の比較

2）第2次　災害の記録と語りの変遷

江戸時代の仮名草子『かなめいし』を読解し，その特徴を確認する。特に挿絵が持つ機能と役割を理解する。風刺や滑稽味のある表現の存在意義について考える。

3）第3次　現代の記録と語りの意味

東日本大震災の被災者による「語り」と東京電力福島第一原子力発電所に関する国会事故調報告書の抜粋を読み，現代における災害についての語りが持つ意味や役割，また記録が持つ意味や役割を実感し，自分は「コロナ禍」の何を語るかを考える。

＜評価＞

本単元は「課題作文」と「定期テスト」によって評価を行った。

「課題作文」は「2020年から現在までのコロナ禍を経験して，あなたはどんなことをどのように語り遺しますか。10年後，20年後，あるいは100年後に同じような経験をするかもしれない人々を想定して語って下さい。」（800字原稿用紙1枚から2枚）とし，授業時間内で執筆して，生徒同士で読み合った。授業者の評価についてはルーブリックを提示した。「定期テスト」は授業内で扱った『方丈記』『平家物語』『かなめいし』の一部を問題文として掲げ，比較して類似性を指摘させる問や作品の文脈の違いを指摘させる問を出題した。

（5）他の教材使用や授業展開の可能性

今回の単元では，「災害」を一つの視点として古典から現代まで通時的に作品を追う形をとったが，同時代において単一テーマで共時的に作品を比較してもよいだろう。たとえば江戸時代であれば，近世前期と後期（幕末）とで，記録の仕方や語り方はどのように違っているのかを比べても面白い。また仮名草子は基本的にフィクションであるが，実際の出来事を記録した日記や随筆なども近世には多く残されている。そうした複数のジャンルを横断する形で文脈の違いを比較することで，災害に見舞われた社会を立体的にとらえることも可能だろう。

３．２ 「人間にとって感情とは」―別役実『寂しいお魚』と真壁仁『峠』通して―

（発案者・実践者　浅井　悦代）

本実践は中学校3年生において別役実『寂しいお魚』と真壁仁『峠』を教材としたものである。『寂しいお魚』は主人公の女の子が，登場人物との関わりを深め，存在の孤独や寂しいという意味を知る短編童話である。『峠』は東北の風土・農村に密着した詩人真壁仁の代表作で，人生の節目に体感する感情を，比喩を用いて描いた自由詩である。どちらも「感情」に焦点を当てた文学作品である。異なるジャンルの文学作品に取り組むことから次の二つのことを目標とした。一つは，文学における「感情」の表現について学習すること，もう一つは，作品における登場人物の感情を自分ごととしてとらえることである。中学校3年生は青年初期から中期に移行する発達段階である（文部科学省 , 2010）。仲間同士の絆を求める反面，他者との交流に消極的になったり，感情を表現したりすることを躊躇する姿勢もみられる。「感情」がキーワードとして挙がる文学作品の分析を通して，自身の考えや意見を他者と共有することを通して，他者理解や自己理解を深めることも目標とした。

今回の単元では，他者との関わりや自己との対話をキーワードとし，他者理解と自己理解を深めるべく，概念「コミュニケーション」を設定した。探究テーマは「人はコミュニケーションで感情や背景を交流し，他者や自己を理解し成長する」である。生徒が『寂しいお魚』『峠』の読解で深めたことをクラスで他者と対話し，気づきを広げ新たな視点を持つことをねらいとした。授業の概要は以下の3点である。①『寂しいお魚』の構造をとらえ主人公の「寂しい感情」の意味を解釈するために本の紹介のポップ創作をする。②人生の節目に体感した感情を自分たちの言葉で表現するために自由詩『峠』の表現技法を分析する。③二つの教材から読み取ったことを比較し共通点をみつける。

単元の総括的評価として，第一に『寂しいお魚』だが，生徒たちは，創作したポップにおいて「寂しい感情」を，一般的に考えられる冷たい色ではなく温かい色で示し，その感情の背景にある他者への愛情をくみ取っていた。つまり，辞書的な意味ではなく，作品の本質において「寂しい感情」の意味や意義を深く語るものとなっていたことがあげられる。次に教材『峠』において，詩の文学的な表現から自分ごととして体感し，人生の節目の出来事となぞらえた。その上で，その時に沸き起こる複雑な感情の背景には未来への希望があることを見出していた。三点目として授業後の生徒の振り返りにおいて，他者と意見交換をしたり議論したりした結果，新たな意見を作りだすことができ，コミュニケーションの重要さを知ったことがあげられる。つまりコミュニケーションを通して他者の意見を理解することが自己の意見に新しい見方を与えたといえよう。「感情」がキーワードとして挙がる文学作品の分析から，生徒が自分ごととして転移させた結果といえよう。しかしながら，授業のどの部分が直接的にこの結果を導き出したのか明らかにできていない。次回実践時には，①「虚構」の世界である文学作品から「現実」への転移の相対化をおこなう，②「寂しい感情」とはどのような感情であるか，生徒自分の言葉で表現することをうながし，共有して学びの熟成を計る，③教材の選択をより精査する，の3点を心がけたい。

文部科学省（2010）子どもの徳育の充実に向けた在り方について　2022年1月閲覧
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm

３．３ 「見えないフォーマット」（発案者・実践者　影山　諒）

（1）単元設定の意図・動機

令和四年度から実施される「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）」の「解説 国語編」では，「育成を目指す資質・能力」として「三つの柱」が整理されている。つまり「『知識・技能』の習得」，「『思考力・判断力・表現力等』の育成」，「『学びに向かう力・人間性等』の涵養」である。そして，この順番には資質・能力を育むための学習の過程も示されている。すなわち「何を理解しているか，何ができるか」という「知識・技能」を身に

つけ，その「理解していること・できることをどう使うか」という活用力を伸ばし，「学びを人生や社会に生かそうとする」姿勢を養うということだろう。今回の改訂で一番大きいのは，「何を理解しているか，何ができるか」と「理解していること・できることをどう使うか」が明確に分けられたことだ。「知識・技能」を身につけ，それを活かしながら「思考・判断・表現力」を育んでいく学習が望まれる。

ここでは「言語文化」における「A 書くこと」領域の授業を提案したい。より良く書くために注意するべき点は様々あろうが，本単元では「構成」をテーマに授業を進めていく。文章の意味が伝わるように書くためには，全体を俯瞰して把握し，段落の順番やつながりなど文章構造を整理する視点が大切だが，こうした見方はなかなか意識されない。そこで本単元では文章の構成に注目することから，段落相互の関係や順番を理解する力を養っていく。文章を書く際の基本とされる構成を学び，その学びを活かす学習を目指す。

（2）教材紹介

・「起承転結」の形式を持った絶句の漢詩（李白「静夜思」）
・「起承転結」の構成で組み立てられた創作怪談三話（「雪山の山荘」，「コインロッカー」，「２０４号室」）
・四コマ漫画（植田まさし「コボちゃん」）
・小説（夏目漱石「夢十夜」，星新一「プレゼント」）
・物語創作のための手引き（田丸雅智『たった40分で誰でも必ず小説が書ける超ショートショート講座』）

（3）単元のキーワード

構成，形式，表現，起承転結，ショートショート

（4）単元の概要

①絶句における「起承転結」

単元の導入は漢詩の学習から始める。絶句の形式を学ぶ中で「起承転結」の構成を学ぶが，そうした構成が近代以降の様々な文章においても用いられていることを理解し，文章の構成を学習する見通しを持つ。

②様々なジャンルの中の「起承転結」

1）怪談の中の「起承転結」

これ以降，各ジャンルの中で起承転結の構成がどのように活かされているのかを理解し，自分の創作につなげていく。ここで用いる教材は怪談だが，ありふれた怪談の要素を参考としながら，三つの怪談を用意した。生徒は三人一グループで班を作り，一人一人がそれぞれ別の怪談の原稿を持ち，自ら起承転結に区切ったメモのみ見ることが許され，自分以外の二人に怪談を語り聞かせる。こうした活動を行うことを通じて，「構成」の理解が「話す」場面でどのような効果をもたらすのかを考える。

2）四コマ漫画の中の「起承転結」

次に，起承転結の構成が殊に活かされている四コマ漫画を扱い，学習を進める。ここでは，主に四コマ目，すなわち「結」の部分に注目することから，作者がどのように「オチ」を構成しているのかを学び，伏線の張り方や回収の方法について理解する。

3）小説の中の「起承転結」

ここからは小説を用いる。扱う教材は夏目漱石「夢十夜」の第一夜と第六夜。これらの物語の構成がどのようになっているかについては，様々に解釈が可能であろうが，ここでは起承転結という考え方で区切った場合，どのように場面を分けることができるのか考えていく。何に注目するかによって様々に分けることが可能なので，構成のとらえ方を通じて生徒自身がこの物語をどのように理解しているのかについて自分自身の読み

を俯瞰的に認知していく。

4）ショートショートの中の「起承転結」

最後に星新一の「プレゼント」という作品を扱う。星新一は「オチ」のあるショートショート作品を生み出す作家として有名だが，作家がどのように「オチ」を構成しているのかをここでも学び，自身の作品制作に活かす。

③物語の書き方

本単元の学習を総括的に評価するための課題として，「原稿用紙一枚に起承転結を意識した物語を創作する」という課題を課す。評価の基準としては，起承転結という構成をいかに理解してオチのある物語を創作できているか。授業を通して理解した起承転結の構成を，どのようにして自分の表現活動に活かせているかを評価する。

（5）他の教材使用や授業展開の可能性

以上，この単元では物語における文章構成のあり方について学習する。一方で，構成は論文や説明的な文章においても重要なテーマである。こうした活動の延長もしくは派生として「現代の国語」との接続も考慮できると，学習がより立体的になると考えられる。

３．４　『「である」ことと「する」こと』と他の文章の比べ読み　（発案者：山根　正博）

（1）単元設定の意図・動機

国語という教科において，評論文の扱いはその評論文自体の読解に比重が置かれてきた。もちろん教材自体が読めないと話にならないので，評論文自体の読解が中心になるのは当たり前のことである。ただ，読解で終わってしまい，その評論文の読解を通して身につけたものの見方や分析手法などが，他の物事に応用されずに終わっていることが多いのも事実である。その結果，今まさに動きつつある現代社会を分析するよすがとなったかもしれない知見が，教科書の中だけの乾燥した，生気のない知識として長期保管されてしまうことも少なくない。評論文教材の知見を利用して，現代社会の事象を分析することによって，評論文教材に生気を取り戻すことを目指した。そのために，評論文と関わらせる文章の例をいくつか提案してみた。

（2）教材紹介

『「である」ことと「する」こと』は，一九五八年に行った講演がもとになっている。その後，『日本の思想』（岩波新書　一九六一年）に収録され，多くの教科書に長年にわたって採用され続けている（掲載される部分に違いはある）。比較する文章は，新聞や web などで探して，適宜修正を加えた

（3）単元のキーワード（概念や文脈なども可）

ものの見方　　関係性

（4）単元の概要（イメージ）

教材自体の読解

生徒の理解に応じて，教材を読み進める。前半は「である」論理よりも「する」論理に焦点が当たるように議論が進められており，また「する」論理の重要性について考えさせるための十分な例が文中にも挙げられているので，その例を利用して本文の理解を促す。

他の文章の活用

「「する」原理をたてまえとする組織が，しばしば「である」社会のモラルによってセメント化されてきた」という部分は，「する」論理の重要性を指摘した部分でもあり，ここまでの流れがつかめていればそれほど理解に困難はない。ただし，この教材では「(「する」価値に基づくことが）さほど切実な必要のない面，あるいは世界的に「する」価値のとめどない侵入が反省されようとしているような部面では，かえって効用と能率原理が驚くべき速度と規模で進展している」という指摘も同時に行われており，「する」価値・論理一辺倒の文章ではない。「である」論理の重要性も，「する」論理と同様に考えさせたいところだが，教材にある例は生徒の理解を促す例とは言いがたい。そこで，Yahoo! 知恵袋にある文章を提示して，「である」価値の重要性についての理解を促してみた。経済活動を行う効率（「する」論理）を優先した結果，日本では古い建物が壊され，新しい建物に取って代わられているが，伝統のある建物であることに価値を見出している例が日本にもヨーロッパにもあることを指摘したやりとりであるが，紙幅の関係上一部を抜粋する。また，「である」論理が強固に蔓延っている例となる文章として，議員世襲の問題を取り上げた新聞記事も利用したが，ここでは割愛する。

① Yahoo! 知恵袋より

日本の建築物は一つ一つ見ると非常に美しいと思うんですけど，日本の街には景観の統一性がないと思います。私はヨーロッパの景観に非常に強い憧れを抱いています。日本の街に統一性をもたせて美しい町並みを生み出すことは可能なのでしょうか？（中略）回答お願いします。

ベストアンサーに選ばれた回答

極めて簡単に言うと単に古いものが残っているからです。（中略）もう一点は，経済活動が高まると都市部の機能は利便性の高い合理性を求めますが，欧州は産業革命時 にそれが起こりましたがそれ以降，日本ほど経済活動の発展速度が速くは無かったので，古い都市骨格でも耐えれたという事です。現在では耐えれなくなったので，都市郊外に再開発で副都心のビル街や工場街をつくっていますので，そういう所の景観は日本と同じです。（中略）

日本でも古い街並みが残ってる場所へ行けば，景観は統一感があります。又，日本でも法律で景観規制は欧州のコードより緩いし運用上の実効性が薄いですが一応あります。例えば風致地区規制などはその代表的なものです。京都なんかの古都は景観条例なんかもありますね。

教材読解後の活動

「である」価値と「する」価値のそれぞれの意義を意識させつつ，一通り教材を読み終わったところで，理解をより確かなものにするために，以下のような文章を提示し，「である」重視の立場，「する」重視の立場にたって，例文中の部活の問題点を指摘させてみた。

質問者　M　　質問「ありえない後輩」（http://www.rokyu.net/bbs_qa_read17024.html をもとに改変）

3年生ら先輩が引退し，僕ら2年生の代になって何ヶ月かが過ぎました。そんな中，後輩である1年生のことで悩んでいます。後輩の1人（以下A）の態度のことです。まるで自分がチームの中心であるかのような，そんなプレーや言動があります。Aはシュート力があり試合でも20得点ぐらいします。でもそのシュート力の過信からか，たとえ3人に囲まれても無理矢理シュートを打ちます。試合ではAにパスしたが最後で，自分一人でボール運んで，囲まれて無理矢理シュート，ハイっ，逆速攻，がパターンです。学習しないというよりは「僕が打たなきゃ誰が点入れるんですか」，て言ってました。確かにフリーや1対1でのミドル力は認めるけど，囲まれたな

らパスせーよ，て感じです。ちなみに僕らは強くもないですが弱くもなく，普通のチームなので皆シュートが全くの下手くそとかではないです。普通です。特に困ってるのが，僕らへの言葉遣いです。普段の生活では敬語なんですが部活になると敬語なんてどこやら，言葉遣いが荒くなります。「はよせーや」「邪魔やからどけ」「それ決めろや」等々。少なくとも後輩であるAが僕らに使う言葉じゃないでしょ？ 確かに言ってることは正しいですが，考えられない言い方です。極めつけは「1年の方がうまいから，2年全員ベンチでいいのに」。 練習試合のハーフタイムで言われました。僕たちの部活は上級生に敬意を払うという意味で，試合には上級生が優先的に出場することになっていました。実力的に「？」と思う先輩も過去にはいましたが，僕たちより年上だから仕方ないと思いましたし，自分たちも上級生になれば試合に出られるので，この方針を当然のものと思っていました。先輩に対して「ベンチでいい」なんてことを言うAについては，バスケうんぬんの前に人間性を疑います。こんな訳で，今部活が楽しくありません。Aの技術力が高いこともあって2年は誰も注意出来ず，注意しても「先輩よりもバスケうまい」と言われたら言い返せません。このまま引退までガマンするしかないのでしょうか？

「である」の立場に立つ場合，上級生であることを重視した発言を展開してほしいし，「する」の立場に立つ場合，バスケットができることを重視した発言を繰り広げてもらいたい。生徒が記入したものの記録は残っていないが，生徒にとって身近な部活が話題となっているだけに，多くの生徒が熱心に考えていた。

この教材についての討議の中で，「選挙の際に何を基準に投票するか」という話題にも応用できるのではないかという指摘をいただいた。どんな家柄の人か，どんな政策を立案してきた人かという対立であれば，確かに「である」「する」とつながっていくだろう。評論で示される観点や分析の手法は，社会の出来事や他のテクストにいろいろと応用できるはずであり，またそれを行っていかなければ，評論を読んで得た知見は無味乾燥なものになってしまうだろう。どれだけの評論文教材でこのような拡張が可能かはわからないが，今後も少しでも可能性を探っていきたい。

３．５ 「何を，どのように表現しているか～現実と非現実～」（発案者・実践者：西村　諭）

（1）単元設定の意図・動機

国語における生徒の古典離れの問題は，その問題自体が古典化してきているほど，深く根強いものとなっている。小学校や中学校の授業で初めて古典に触れる時には，どの児童生徒も興味関心を持って取り組むにも関わらず，学年が上がるにつれ，古典に対する苦手意識を抱く生徒が多くなる。その一方で，生徒の中に大学受験への意識が芽生え，文法事項や解釈にこだわる生徒が増えてくる。そうした中で，生徒たちが主体的に本文を読み，自らの思考を働かせ，的確に表現することを意識した授業を実践した。授業の具体的な内容は，「現実と非現実」がどのように描かれているかを探る，というものである。

（2）教材紹介

古典：①上田秋成『雨月物語』から「浅茅が宿」

現代：②村上春樹『レキシントンの幽霊』

補助教材として③三島由紀夫「小説とは何か」，④柳田国男『遠野物語』，⑤水野葉舟『趣味』から「怪談」，⑥谷崎潤一郎『文章読本』などの文章のほか，⑦カナダの画家であるロブ・ゴンサルヴェスの絵などを資料として提示した。

（3）単元のキーワード

現実と非現実・比喩・移動・間テクスト性

（4）単元の概要

第1時：名文とは何かについて考える

・教材①の特定部分（亡くなった宮木の霊と勝四郎との出会いの場面）を，⑥を参考にして読み直し，名文たる要素を探ることで，表現のあり方について考える。

第2 ～4時：現実と非現実の境界について考える

・⑦の絵（トリックアートのような絵）を複数提示し，現実と非現実について考える。

・第1時で扱った①の特定部分について，現実と非現実について考える。

・③④⑤の文章を読み，非現実の世界を現実たらしめている表現のあり方について考える。

第5～6時：「何を」「どのように」表現しているかを考える

・①と②の比較を通して，共通点と相違点を考える。

・非現実の世界を描くための表現のあり方と，それぞれの作品・作者の特徴を探る。

〈評価について〉

上記の流れで①と②を比較分析し，評価課題としてレポート作成を課した。レポートの課題は以下の通りである。

『浅茅が宿』と『レキシントンの幽霊』の二作品について，以下の【1】～【3】の中から1つ選び，比較・分析せよ

【1】文学作品において，登場人物の心境を描くときに，直接的に表現しないで間接的に他のもの（自然描写，視覚的光景，皮膚感覚等）を使って表す場合が多く見られる。どのような場合にそういった技法が使われるか。また，それはどのような効果を生んでいるか。二作品から例をあげて比較して述べよ。

【2】作者はどのような技法を用いて，独自のスタイルを作り上げているか。また，その独自のスタイルは作品にどのような影響や効果を与えているか。二作品から例を挙げて比較して述べよ。

【3】物語や小説において，イメージやシンボル（＝象徴）やモチーフ（＝題材）が用いられていることがある。それはどのような効果をあげているか。「イメージ」「シンボル」「モチーフ」のうち一つまたは二つを選び，二作品から例をあげて比較して述べよ。

（5）他の教材使用や授業展開の可能性

本実践は古典Ｂの授業ではあるが，古文の文章を読む力を身に付けさせることが第一のねらいではない。文法事項や古文単語などに重点を置くのではなく，現実と非現実の境界を探ることを通して，表現者が「何を」「どのように」表現しているのかを捉える力を身に付けさせることに眼目をおいた。したがって，詩や韻文を始めとする国語の教材や作品だけでなく，国語以外の美術や音楽・体育などにおいても，表現されたものを複眼的に捉える視点を養うものとして活用できよう。

３．６．１ 「戦争体験の『表象』」（発案者：若宮　知佐）

（1）単元設定の意図・動機

「表象（representation）」について考える。「過去の出来事を再現して伝えることは可能か？」という問いを立て，戦争の惨禍を伝える複数の作品を比較読みするなかで，「表象」の意味と留意すべき点について考察させる。文学作品のみならず，絵画，写真，映像といった様々な表現形態の作品を扱うことで，表象媒体の特性についても気づかせ，よりよい表現者になるスキルを育成したいとも考えた。

（2）教材紹介

石原吉郎「ある〈共生〉の経験から」（随想）　　目取真俊『水滴』（小説）

S・ソンタグ『写真論』（評論）　F・ゴヤ「戦争の惨禍」（版画）　R・キャパ「崩れ落ちる兵士」他（写真）

スピルバーグ『シンドラーのリスト』（映画）　　ランズマン『ショアー』（映画）

（3）単元のキーワード（概念や文脈なども可）

表象　　ものの見方　　アイデンティティー　　物語　　メディア

（4）単元の概要

最初に，シベリア抑留を描いた「ある〈共生〉の経験から」と，沖縄戦の語り部である主人公の懊悩を描く『水滴』を併せて読むことで，表象行為そのものや，表象につきまとう恣意性・物語性について考察する。次に，戦争を記録したゴヤの版画とキャパの写真を比較し，ソンタグの『写真論』を読むことで，人間の歴史に写真というものが登場したことの意味や，そのことによる歴史表象の変質について考える。最後に，ナチスによるユダヤ人大虐殺を描いた映画『シンドラーのリスト』を40分間ほど（ゲットー移住／強制収容所／焼却命令／解放の４シーン），大虐殺を経験した人々の語りを記録した映画『ショアー』を20分間ほど（死体焼却について語るシーン）鑑賞する。そして，同じ出来事を表象している『シンドラーのリスト』と『ショアー』で，どのように表象方法が異なっていたかを考察し，レポートにまとめさせる。単元の評価はこのレポートで行い，二つの映画作品の表象方法とその効果の違いを分析的に考察できているかどうかで評価する。

（5）他の教材使用や授業展開の可能性

教科書教材となっている岡真理の評論「虚構のリアリズム」や「虚ろなまなざし」は，いずれも表象の問題を正面から取り上げており，本単元から展開することが可能だろう。

３．６．２　「意思集約システムの『取扱説明書』を書こう」（発案者：若宮　知佐）

（1）単元設定の意図・動機

社会の意思集約システムについて再考する。〈多数決〉の問題点を指摘した坂井豊貴「多数決を疑う」と，ウェブサイトの検索エンジンについて説明している全卓樹「ペイジランク―多数決と世評」を比較読みすることで，現代における意思集約システムの諸相を多面的に捉えさせる。そのうえで丸山眞男「『である』ことと『する』こと」を読むことで，固定的なものと考えがちな社会制度を捉え直す機会にしたいと考えた。

（2）教材紹介

安部公房「闖入者」（小説）　　坂井豊貴「多数決を疑う」（評論）

全卓樹「ペイジランク―多数決と世評」（評論）　　丸山眞男「『である』ことと『する』こと」（評論）

（3）単元のキーワード（概念や文脈なども可）

つながり　　システム　　一般意志　　合意形成

（4）単元の概要

安部公房の中編小説「闖入者」の冒頭部を読み，多数決で全てを決しようとする作中の「紳士」が何を寓意しているのかについて意見を述べ合う。次に，「多数決を疑う」と「ペイジランク―多数決と世評」を比較読みし

ながら，多数決の優れている点と問題点について考察した上で，〈多数決〉〈ボルダルール〉〈満場一致〉〈討論型世論調査〉といった意思集約システムについての「取扱説明書」を作成する。最後に「『である』ことと『する』こと」を読み，400字程度の意見文を書く。評価は，「取扱説明書」と意見文，定期考査で行う。

（5）他の教材使用や授業展開の可能性

高校2年生の3学期に実施する単元であり，科目「現代社会」が同じ時期にルソーの『社会契約論』を扱うところから，現代社会と連携した単元構想になっている。また今回は十分に連携できなかったものの，多数決やボルダルールを評価するプロセスにおいて数学科との連携も考えていきたい。

３．７　「冒頭中毒」（発案者　横田　哲）

（1）単元設定の意図・動機

テクストの冒頭は，受け手がテクストの世界に踏み入れる際の扉である。この扉の開き具合はテクストの作者によって調整されており，そこには，どのようにテクストを読み手に受容させていくのかという作者の思惑が存在している。生徒は，様々なテクストの冒頭比較を通し，それぞれの作者の思惑を分析していく中で，作者の豊かな創意工夫を見てとることが出来る。また，その分析をもとにしながら冒頭を創作することで，自らの創造性を向上させていくことも期待できると考えた。

（2）教材紹介

・土佐日記（紀貫之）
・三国志演義（羅貫中）（立間祥介「三国志演戯」）
・育休刑事（似鳥鶏）

今回については，現・古・漢の三分野が扱えるように，かつ，社会問題（育休）について生徒に紹介できる機会となるように，これらの教材を選出した。その他，夏目漱石「吾輩は猫である」，カフカ「変身」，有川浩「図書館戦争」，鴨長明「方丈記」なども冒頭部分が特徴的であり，比較対象として用いやすいと考えられる。

（3）単元のキーワード（概念や文脈なども可）

表現方法，表現技法，創造性

（4）単元の概要（イメージ）

評価課題①：初見のテクスト2つの比較小論文

出題された2作品の冒頭において，類似点と相違点を報告しなさい。また，そのような冒頭表現を作者が選択したことが，受け手の読みにどのような効果をもたらすかについて分析しなさい。

課題②：架空プロットに対する冒頭の創作（自作小説でも可）

架空プロット

時代設定	2030年　コロナウイルスによる感染が収束した世界
人物設定	主人公は高校1年生（性別指定なし）
あらすじ	アフターコロナにおいて，世界は新たな問題を抱えていた。主人公はそんな世界の中で暮らしているが，だからといって，何かしなければとも思っていない。しかし，ある事件をきっかけに，世界の混乱に巻き込まれていってしまう。（**曖昧な部分は自由に考えて構いません。**）

評価課題②に関するルーブリック

0	以下に記された基準に達していない
1-2	ⅰ　洞察，想像力，感受性を限定的に示すテクストを創作する。 ⅱ　受け手に与える影響を限定的に認識した工夫を選択している。 ⅲ　アイデアを発展させるために，関連する情報をごく少数選びだす。
3-4	ⅰ　洞察，想像力，感受性をある程度示すテクストを創作する。 ⅱ　受け手に与える影響をある程度認識した工夫を選択している。 ⅲ　アイデアを発展させるために，関連する情報をある程度選びだす。
5-6	ⅰ　洞察，想像力，感受性をかなりの程度示すテクストを創作する。 ⅱ　受け手に与える影響を考えた工夫を選択している。 ⅲ　アイデアを発展させるために，関連する情報を十分に選びだす。
7-8	ⅰ　高度な洞察，想像力，感受性を示すテクストを創作する。 ⅱ　受け手に与える影響を十分に考えた賢明な工夫を選択している。 ⅲ　アイデアを的確に発展させるために，関連する情報を豊富に選びだす。

展開案

1）様々な冒頭を紹介しながら，「冒頭」の定義を確認する。ただ，文学的な定義としては存在しているわけではないため，廣野由美子氏の「文学批評理論入門」（2005）を紐解くと，「（冒頭は）現実世界と虚構の世界とを分かつ『敷居』のようなものである」（David John Lodge）と記述されており，この内容を生徒に紹介する。そして，この単元においては，話題の区切り目を，「冒頭」の切れ目としておくことを生徒に理解させる。

2）「育休刑事」「土佐日記」「三国志演技」の冒頭の分析を行う。古典教材については，読解に必要な基本的な文法・句法の確認も合わせて行っていく。分析の観点としては，「語り手」「中心話題」「登場人物」「比喩表現」「文体」「紙面の使い方」など。

3）授業で扱ったテクストを用いて比較小論文の練習に取り組む。

4）発展的な問いとして「冒頭で全体の良し悪しは語れるのか。」について議論する。その後，「第一印象で他者を評価することについてどう考えるか」を問い，テクストについての議論から別文脈へと転移させていく。

３．８　「多様なモードでの作品理解を探る」（発案者　小岩井　僚）

（1）単元設定の意図・動機

2018年度国際バカロレアディプロマプログラム（以下 IBDP）「文学」において，文字情報に限らず，多様なモードのテクストについて考えるひとつのきっかけとしてグラフィックノベルを用いて単元を構成した。当時の IBDP「文学」では新たなテクスト性として，グラフィックノベルやハイパーテクスト・ナラティブなどの画像や複数のテクストを関連付けて構成される作品を扱うことが推奨された。これらによって，従来の文字を中心とした作品の理解だけでなく，多様な作品の在り方について探究することが求められた。このことから，本単元では，グラフィックノベルを主教材として扱い，ひとつの作品における多様なモードがそれぞれ，またはお互いにどのように影響し合って意味を作り上げているのかを探究するとともに，これまでの作品との比較において，大きく変化している現代のテクストの在り方について理解を深めることを意図した。

（2）主な教材紹介

・ティリー・ウォールデン『スピン』：作者の経験をもとに描かれ，高校生の主人公がそれまで続けてきたスケートとの関係，友人との関係，生徒の恋愛などその年代が抱える多様な課題を扱う作品である。

・CYMATICS「Science Vs. Music - Nigel Stanford」：音楽をテクノロジーなどを用いながら視覚的に表現する

ことに挑戦した動画。（https://youtu.be/Q3oItpVa9fs）

・ニール・ハービソン「僕は色を聴いている」：色覚に障害を持つニールが，テクノロジーの力を借りて色を聴き分けられるようになったことについての TEDTalk でのプレゼンテーション。
（https://www.ted.com/talks/neil_harbisson_i_listen_to_color?utm_campaign=tedspread&utm_medium=referral&utm_source=tedcomshare）

・Cut「Kids Describe Color to a Blind Person」：子どもたちが全盲の方に色を伝える動画。色にどのような印象を持つかなどを言語化しており，色の感じ方を考えることができる。（https://youtu.be/MK94B9VcDyU）

（3）単元のキーワード

グラフィックノベル・マルチモーダルリテラシー・DP 文学

（4）単元の概要

・導入：動画教材を視聴しながら以下の言葉について考える。
「文字を読む。文字を見る。文字を聴く。文字を書く。絵を見る。絵を読む。絵を聴く。絵を書く。音を聴く。音を見る。音を読む。音を書く。」通常の発話ではなされないものもあるが，すべてが文字または画像として描かれているグラフィックノベルにおいて，どのように意味を生成しているのかを考える。

・分析：複数の観点からグラフィックノベルを分析し，発表・議論する。
「絵・コマ使い・テキスト・身体的表現・音楽的表現」が作品における意味を作り出すにあたって担う役割，相互の関係性を分析する。その考察をもとに「映画との比較・小説との比較・日本の漫画との比較」を行い，グラフィックノベルおよびその他の新しいテクストの特徴について考察を深める。

・評価課題：「グラフィックノベルとしての『スピン』の主題はどのように表現されているのか」について批評文を論述する。
分析と議論をもとに，グラフィックノベルの特徴を捉えて，どのように主題が表現されているのかを論述する。

（5）授業展開の可能性

新たなテクスト性のある作品を用いることで「言語は何を表現することを可能としているのか」「私たちは何（どこ／五感など）を用いて言語表現を理解しているのか」「多様な表現方法における特徴・違いは何か」などの問いの探究が可能となる。一方で，これまで用いられてきた作品も「俳句と絵画／写真・漫画と小説と映画・歌とミュージックビデオ」のように，比較読みとして組み合わせることで十分に新たなテクスト性の可能性を探ることができる。多様なテクストが創出される現代において，比較読みによってより深い作品の理解に迫ることが可能となる。

４．今後の課題と次年度の展望

令和３年度（2021年度）においては，「比較読み（比べ読み・つなげ読み）」教材をどこまで幅広く発想し，科目の枠を超えた単元のアイディアを集められるかということを課題にしていた。前項に掲げた単元案は実践ができていないものも多いが，例会の各回においてアイディアを共有する中で「組み合わせが面白い」「こんな教材も使えるのではないか」「わたしの単元と連動できるかもしれない」という意見が活発に交わされたものもあり，ぜひ次年度以降に実践を実現できればと各人が考えている。

本研究は次年度に向けて研究計画を申請中であるが，研究グループとしては長期的展望をもって「比較読み教材」を活用した「知の統合」をめざすような単元開発を継続し，それらを体系的にまとめることを志していく。

5．付録　比較読み単元案一覧表

科目名 あるいは関連するジャンル	作品ジャンル （小説×映像　等）	作品１	作品２	作品３	作品４	単元のねらい	単元の問い	主な活動・単元のイメージ	組み合わせの視点 時代／ジャンル／映像・メディア／社会問題／概念
文学×アート	小説・絵画・映画	原田マハ『アノニム』	ジャクソン・ポロックの絵画	バンクシーのグラフィティ	芥川龍之介『地獄変』	人間のコミュニケーションはどのように成立するのかについて考える。	非言語表現はどのように言語化されるか（できるか）・言語はどのように画像のイメージを構築するか	眼が見えない人に絵を説明する方法を考える。	伝達方法・メディアの違いを組み合わせること➡コミュニケーションの方法への意識の強化
文学×メディア	小説・映画・新聞	原田マハ『アノニム』	映画『乱世忘備』	映画『十年』	香港・中国問題を取り上げた新聞記事・SNS・ブログ	規制や抑圧を受ける可能性のある人々の意志や主張はどのような表現を通して違うコミュニティに伝わるのかを考える。	葛藤や軋轢の中で生きる人間のメッセージはどのように社会に表出するか	強い軋轢や規制の中で主張や意志を社会に届ける方法を考える。	小説の背景となっている社会について別のジャンルの情報を組み合わせることで社会問題への意識を喚起する。
古典×メディア×語り	古典（随筆）・ニュース映像・語り部の記録	鴨長明『方丈記』	災害ニュース映像	『16歳の語り部』（東日本大震災　語り部記録）		災害を含めた社会の「記憶」を人はどう継承していけるかを考える。	記憶はどのように継承されるか。	『方丈記』の災害の章段をニュースとして語りなおしてみる。 災害ニュース映像や新聞記事と語り部の記録を比べ，報道されていないことと報道されたことの違いを分析する。	社会問題への理解の深化・言語化された記録の意味の再認識
現代文×古典	小説・古文・漢文	似鳥鶏『育休刑事』	紀貫之『土佐日記』	羅貫中『三国志演義』（立間祥介訳）	・ライトノベル・夏目漱石「こころ」	意識的に「出会い」を創造することによって，その後の印象や評価を操作することができるのではないか，ということについて考える。	テクストの冒頭には，作者のどのような思惑が隠されているのか。	3つのテクストの冒頭（教員の方で，内容の切れ目，紙面の都合などから恣意的に抜粋）を，「語り手」「登場人物」「内容」などの観点からそれぞれ分析し，比較する。	小説・物語
現代文×国語表現	広告・CM	新聞広告クリエイティブコンテスト入賞作品集	TVCM・ネットCM			広告やメディアが持つ「文脈」とバイアスを認知する。	メディアの受け手は作品の文脈をどのように受け取るのか	広告と呼ばれるものをテーマやトピックを共通させて比較する・広告（CM）を作る	文脈
現代文×古典×メディアミックス	小説・映画	華氏451または1984	図書館戦争	史記『焚書・坑儒』	江戸時代の草双紙で筆禍にあったもの・戦時下の新聞記事・新書『新聞記者』・表現の不自由展問題・SNSでの人権侵害問題	言論統制や表現の自由がなぜ問題になるのかを考える	言論の自由の必要性はどのように表現されるのか	それぞれの作品・テクストがどのような表現で「言論統制」や「表現の自由」を描いているのかを分析する。また現代社会における問題の表象について話し合う。	人権・政治
現代文	俳句・写真・絵画	俳句	写真	絵画		表現方法の違う作品を「読み」何が起きるかを考える。音が聞こえる，映像が見えるなど。共通点と類似点を考えることによって，それぞれの表現方法の特徴を考える。	表現方法の違いが私たちの意味の構築にどのような影響をもたらすのか。	それぞれの作品について何を伝えようとしているのかを考え，それはどこから読み取れるのかを考える。俳句であれば，語彙選択など，写真であれば写っているもの・時代など，絵画であれば，描かれているもの・時代・色使いなど？	言語・表現・メディア？
現代文	評論	木村敏「ものとこと」	藤田正勝「哲学のヒント」（岩波新書）			人間の世界の捉え方について考える	世界の捉え方にはどのようなバリエーションがあるか？	作品2で示される図式を元に作品1を理解する。	世界観
現代文	評論	丸山真男「である」ことと「する」こと	新聞記事など			やや抽象的な説明と現実世界の関わりを見いだす	やや抽象的な説明で示されたパターンを現実世界に見いだすことができるか。	作品1で示されたパターンを新聞等で報道された内容に見出す	具体と抽象
現代文	小説・評論・絵画・写真・映画	目取真俊「水滴」	S・ソンタグ「写真論」	F・ゴヤ「戦争の惨禍」 R・キャパの写真	スピルバーグ「シンドラーのリスト」 ランズマン「ショアー」	表象（representation）について考える。かつて起きた出来事を再現し伝えて行くことの意味と落とし穴について，さまざまなメディアの違いについても考察しつつ，気づかせたい。	「出来事」を伝えることは可能か？		表象／物語／表現媒体
現代文	小説・童話・映画	佐野洋子「ありときりぎりす」	イソップ寓話「蝉と蟻」	ディズニー映画「アリとキリギリス」		小説の表現技法について考える。イソップと比較することで，近代小説としての佐野作品の表現技法が浮き彫りになる。生徒が星新一作品等も持ってくることが多い。ディズニーについて考察すると「西洋近代」の価値観に気づく。	「物語」はどんな企みを持っているのか？		
現代文×古文	現代短歌・古文歌合	短歌十三首（大修館教科書）	古文，壬生忠見が死ぬ話			現代短歌の技法を分析した上で，各自「窓」で題詠をする。その後歌合せをして，方人の分析の出来で勝敗を決する。	短歌の技法はどんな効果を持つか？		

科目名 あるいは関連するジャンル	作品ジャンル （小説×映像　等）	作品１	作品２	作品３	作品４	単元のねらい	単元の問い	主な活動・単元のイメージ	組み合わせの視点 時代／ジャンル／映像・メディア／社会問題／概念
現代文	評論・新聞記事・データ	岡真理「開かれた文化」	イスラム文化新聞記事	選挙投票率に関する各国のデータ（東大の推薦入試問題）		「他者」との対話について考えさせる。文化相対主義や多文化主義についても調べさせつつ，最終的に東大の推薦入試問題のデータを使ってディスカッションをし，互いの他者性に気付かせる。	「対話」とは何か？		
現代文	小説・詩	別役実「寂しいお魚」	真壁仁「峠」			自分の感情に着目し，感情は自身の成長にとってどんな役割を持つのか気づく。	人はコミュニケーションによって感情を知り，その感情は人をどう成長させるのか？	・構造を捉える・登場人物関係図・問「ネガティブな感情を知ることは幸せなのか？」・ポップ作り・詩「峠」感情に焦点を当て内容の比較をする	コミュニケーション・テーマ・登場人物
現代文×古典（漢文）	小説・怪談・評論・漢詩	怪談	夏目漱石「夢十夜」	安部公房「日常性の壁」	漢詩	「起承転結」に注目し，「構造」もいわゆる「言語文化」として古典から現代の文章に影響を与えていることを理解する。	我々の文章理解は，どのような構造に支えられているか。	作品として挙げた怪談は（小話と考えていいかも知れない），「起承転結」の構造を持つものが多い。また「夢十夜」に限らずいわゆる「ショートショート」も「起承転結」の構造を持つものが多い。こうした構造は物事の理解を支えてくれ，構造の理解はスピーチなど発表の場面でも役立つ。構造を理解することが，「理解」や「覚えること」にどのように作用するのか考えていく。	形式・構造
現代文×現代文×非言語表現	小説・写真・音楽・漫画	恩田陸『蜜蜂と遠雷』	三浦しをん『風が強く吹いている』	オリンピックの競技写真・動画・ピアノ曲・ピアニスト演奏動画	漫画「リアル」井上雄彦・「ピアノの森」	身体による表現・非言語表現はどこまで言語化されるか・言語の限界と可能性に挑む			
		夏目漱石「夢十夜」	魯迅「野草」	アンデルセン「絵のない絵本」	泉鏡花				
		芥川龍之介「羅生門」	ディキンソン詩集			読み継がれる理由（要素）について分析する（「教訓」だけが詠み継がれるのではない）			
	随筆・紀行文・小説・絵本	おくのほそ道	深夜特急・旅行ミステリーのようなものでもよいか？	旅する力・モーターサイクルダイアリーズ	旅の絵本	移動と変化をどう表現するか	移動と変化を表現することは何によって可能になるか。		「旅」をテーマにしたもの。ガイドブックとの比較などがあってもいいのかもしれない。
現代文・古典	小説・読本（草双紙）または歌舞伎	アノニム・怪盗ルパン・ルパン三世（カリオストロの城）・時代劇の義賊もの	近世　南総里見八犬伝ある いは短い草双紙で義賊が出てくるもの			時代における「正義」の変遷			